

研修の特徴 産婦人科

墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

婦人科腫瘍

プログラム責任者：産婦人科 岩瀬 春子
プログラム期間：3（～7）年

当院は地域がん診療連携拠点病院として、区東部のがん診療の中心的役割を担っています。早期がんから進行がんにいたるまで多くの患者さんが来院されており、診断から治療、経過観察等系統的に学習を積むことが可能です。

手術については、卵巣癌根治術や広汎子宮全摘出術はもちろん、2022年1月からはロボット支援下手術も開始しており、低侵襲手術も併せて経験することができます。

また、化学療法や放射線治療、緩和治療についても多くの経験が可能です。

さらに、臨床試験への参加や、臨床研究、学会発表、論文執筆などの指導も行っています。

周産期（母体・胎児）

プログラム責任者：産婦人科 兵藤 博信
プログラム期間：3年

当院は東京都区東部地域の総合周産期センターで、早産や低出生体重児の症例が豊富です。また、総合病院であり、救命救急センターを備えているため、合併症妊娠や産科救急の症例も豊富です。

さらには、都立病院という背景から、社会的ハイリスクも数多く受け入れ、その対応、サポートについても学ぶことができます。

周産期専門医・指導医が多数在籍し、1例1例、母体や児の病態を考えながら、また毎週の新生児科とのカンファレンスや、症例ごとに他科・他部門と知恵を出し合い治療に臨み、そういった診療の最前列で経験を積んでいきます。

決して他の施設では経験できないような「濃い」研修ができると思います。

多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

周産期 (新専門医制度)

プログラム責任者：産婦人科 本多 泉
プログラム期間：3年

当院は小児総合医療センターと共に総合周産期母子医療センターに指定されており、日本周産期・新生児医学会の母体・胎児専門医の基幹認定施設です。

多摩地域は約3万件の分娩数があります。この地域で二つしかない総合周産期母子医療センターの一つであり、都立病院としての立場から、最後の砦として多くの困難症例を受け入れています。臨床指標となる各項目は概ね、分娩数1,200件、帝王切開500件、双胎100件、母体搬送200件、母体救命20件です。

多摩地域の胎児異常症例は当院に集約されており、症例数は豊富です。超音波専門医、胎児心エコー認証医による診断、ハイリスク妊婦カンファレンス、画像カンファレンスなどを通じた指導体制が整っています。また、3か月の小児総合医療センターNICU研修も可能です。

研修の特徴 産婦人科

大塚病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

周産期

プログラム責任者：産婦人科 岩田 みさ子
プログラム期間：3年

日本周産期新生児医学会母体・胎児専門医は妊娠、分娩に関わる母体と胎児の管理を行い、他の医師に適切な指示を与えることのできる臨床能力を有することが必要です。その専門医にふさわしい知識と技能を習得することを目標とします。困った時は、指導医、専門医にいつでも相談できる体制を整えています。また、産婦人科に所属するため、婦人科業務にも従事します。

研修期間は原則3年間で、1年目は当科で周産期医療の基本を身につけます。2年目は半年他院で研修を行います。残りの半年間に当院の新生児科、麻酔科、糖尿病内科ヘローテーションを行います。当直業務は当科で行う。3年目は当院において、経験症例数を増やすとともに、シニアレジデントの教育・指導、臨床研究のまとめなどを行います。3年間の研修で日本周産期新生児医学会母体・胎児専門医の受験資格を得ることができます。

婦人科腫瘍

プログラム責任者：婦人科 喜納 奈緒
プログラム期間：3年

当プログラムは日本産婦人科学会専門医取得後のサブスペシャリティ領域である婦人科腫瘍分野を研修し、婦人科腫瘍専門医を養成するプログラムです。

当院では婦人科悪性腫瘍中心の治療を行っており、開腹手術を基礎に腹腔鏡下手術、経腔的腹腔鏡手術、ロボット支援下手術をはじめ、放射線治療、薬物療法、緩和治療含め婦人科腫瘍専門医取得を目指す幅広い研修が行われます。多くは3年終了時に専門医取得に必要な症例数を達成し、高度な治療技術が習得できています。

ほか、希望があれば、産科婦人科内視鏡技術認定医、日本遺伝性腫瘍学会専門医や臨床細胞診学会専門医の研修も可能です。